

○事業所名	放課後等デイサービス 桜の家			
○保護者評価実施期間	令和8年9月10日 ～ 令和8年9月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和8年9月10日 ～ 令和8年9月26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年9月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の方が桜の家の利用を楽しみにしている。	利用するお子様が飽きないように、活動を工夫している。 又、イベントや外出、クッキングなどの体験の時間を多く取り入れ常に子どもが楽しいと感じる時間になるように配慮している。	より多くの体験の機会を作っていけるようにしていきたい。 お子様が楽しいと感じられる時間を多くしていく。
2	保護者との連携ができています	子どもの状況や、施設での活動の様子などを伝える機会を多く作っている。	保護者の方が気軽に相談できるような関係性を作り、常に家庭と協力しながら支援を行っていく
3	職員配置がしっかりできていて、ひとりひとりに手厚い支援ができています	一日の支援に携わる職員の数を多く配置することで、職員にも余裕が生まれ、お子様ひとりひとりに対して手厚い支援をすることができている。	職員が余裕を持って支援に携わることができるように、職員の体制を整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との連携や交流の不足	地域の子どもの交流ができる機会がない。	あまり地域との連携や交流の必要性を感じることがすくないため積極的に取り入れていないが、必要であれば検討していく。
2	・保護者交流会・兄弟の支援の不足	利用者の数が増えたため、保護者との面談する回数が減ってしまった。そのため保護者の方との情報共有する機会が減っている。ペアトレも実施までいたっていない。	仕事もされて忙しい保護者が多いため、保護者との交流の機会や話合う機会が少ないと感じる。今後は保護者に対してのアプローチを積極的に行っていきたい。
3	・ひとりひとりに合った支援の実施	人数が多くなったこともあり、全体で行う活動が増えている。	個人の課題に合わせた支援を行えるようにしていく。支援の目的やねらいについて職員同士が周知していく仕組みを作っていく。